

## 大原社会問題研究所五十年史

## III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

## 高野所長の発病

一九三〇年 昭和五年 一九三〇年四月一〇日東京において委員総会が開催された。病気も小康を得たので高野氏は上京してこれに出席した。主要な決定事項はつぎの通りである。

- (一) 今後は委員総会を大阪、東京に年一回ずつ計二回開くこと。
- (二) 所内に調査室を設け、必要があれば臨時雇も使用し、調査を一層効果的に実施すること。調査室の主任は森戸氏が当ること。
- (三) 図書購入には久留間氏が主任としてこれに当ること。
- (四) 雑誌編集主任は高野氏、その補助者を榎田氏とし、任期は一年とする。
- (五) 雑誌は年四回発行とする。
- (六) 研究所主催の特別講演会を毎月一回開催し、この外に学術講演会を催し、講師は所員のみならず所員外にも求めること。

この年四月から木村定氏が臨時雇として入所し、越智、笠岡氏は四月から資料室勤務になった。また会計監査は今年五月から細川氏が当ることになった。

この年高野所長は前述のように一月中旬以来、胆石病を再発し、四月の総会頃には一時回復したが、六月初旬再び発病、神戸・昭生病院に入院、その後三年余り、長い病床生活を余儀なくされた\*。高野氏入院中は森戸氏が所長事務代理となった。

\*高野所長が同病院を退院したのは一九三一年一〇月二五日で、翌月一六日に、高野邸で委員会が開かれた(出席者森戸、細川、大内、久留間、大林、権田、高野)。高野氏は一九三〇年五月失業対策委員に就任、また同年七月、全国労農大衆党(全国大衆党と労農党の合同したもの)の顧問に就任した。

この期間(一九三〇-三二)における主な調査とその担当主任はつぎの通りである。

婦人問題調査	森戸(一九三二年完了)
我国における社会主義の生成とキリスト教	森戸(一九三二年完了)
無産政党の現状調査	榎田
米騒動基本調査	細川
映画企業の資本的構成調査	権田
理髪・結髪・美粧業従業員調査	大林(一九三二年完了)
消費組合調査・労働学校調査	調査室

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

研究活動・刊行物 [OISR.ORG](http://oisr.org)全文検索

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)